



杉並区みどりの基本計画 検討委員会 (第4回)

1

令和6年1月24日(水) 午後6時00分～
杉並区役所 第9会議室

本日の進め方

- 前回の振り返り
- みどりの将来像と基本方針について
- 取組一覧について
- 計画素案構成について

前回の振り返り

3

前回の振り返り

4

委員から頂いた主なご意見

* 目標について

「大好きな公園まですぐ行ける」という目標では、主観的な大好きを入れても良いか気にかかる。

小さな公園でも魅力的なところはある、自由に使える公園はみんなが大好きになる。

防災にかかる目標は備蓄やオープンスペースなどのデータで表した方がよい。

みどりに興味がない人にみどりを育ててもらうというのは難しいと思う。

「樹木・草花」を育てている区民の割合は野菜が入らないので、「植物」にした方がよい。

* みどりの将来像、基本方針について

みどりの質を高めることで、みどりの存在感がまちの風格やランドスケープをつくる。

選ばれるという表現は微妙で、ビジョンと実態がかけ離れないようもう少し広い視点が必要。

官がサービスを提供して区民が受け取るという構図から抜け出す必要がある。区民はすべての取組に関わることができる。

前回の振り返り

5

委員から頂いた主なご意見

* 取組について

区民を応援するような書き方が良い。

みどりに関わる区民のすそ野を広げない限りは、自分ごととして捉える意識は高まらない。

行政が自由な活動を受け入れて、いろいろな人が流入して自分ごととして考えると書き方が変わる。

農福連携は先進的なのにPRされていない。

区内の小さな企業が関わりたいと思ったときにP-PFIなどが書いてあると進みやすい。

自然共生サイトの登録は積極的に進めてほしいし、解像度を高く記載してほしい。

みどりの将来像と基本方針について

計画の構成

7

現状
と
課題

改定
の
視点

みどりの将来像

区民が変える
みどりでつながるまち 杉並

基本方針1

みどりがあるあたり前を 変えよう

取組一覧

基本方針2

みどりでつながるまちに 変えよう

取組一覧

基本方針3

みどりのある未来にいま 変えよう

取組一覧

みどりで覆われた杉並
数値目標 「**緑被率25%**」

魅力的な公園にすぐ行ける
数値目標 「**公園充足率80%**」

いろいろな生き物に出会える
数値目標 「**確認できる鳥類75種**」

みどりでいっぱい景色
数値目標 「**緑視率25%**」

みどりが生活の中にある
数値目標 「**植物を育てている区民の割合90%**」

「**区民満足度80~90%**」

みどりの将来像と基本方針の検討

8

みどりの将来像

みどりが暮らしの中に息づくまち 杉並
～受け継いだみどりに感謝して、もっと豊かなみどりを次世代へ～

現計画

基本方針1

身近なみどりを守ろう

基本方針2

新しいみどりを創ろう

基本方針3

みどりの質を高めよう

基本方針4

みどりでまちをつなげよう

基本方針5

みんなでみどりを育てよう

改定の視点

検討委員会での主なご意見

区民からの主なご意見

みどりの将来像と基本方針の検討

9

改定の視点

- ① 直面する気候危機に立ち向かい、
多様な生き物が生息できる空間づくり
→ **未来を変える**
- ② グリーンインフラを活用した持続可能で
安全安心なまちづくり
→ **みどりでまちを変える**
- ③ 杉並の原風景から見る“杉並らしい”
みどりのあり方
→ **考えを変える**
- ④ みどりに関わる多様な立場を理解し、
「自分ごと」として考える
→ **区民が主役**

検討委員会での主なご意見

- ・官がサービスを提供して区民が受け取るという構図から抜け出す必要がある。
→ **区民が主役**
- ・みどりに関わる区民のすそ野を広げない限りは、自分ごととして捉える意識は高まらない。
→ **区民が主役**
- ・みどりの存在感がまちの風格やランドスケープをつくる。
→ **みどりでまちを変える**

区民からの主なご意見

- ・より多様な人が活動できるよう、ルール自由化を進めてほしい。
→ **区民が主役**
- ・どこにでもある街並みから、緑あふれる街にすることでこれからの人口が減少する中でも選ばれる街になってほしい。
→ **みどりでまちを変える**
- ・みどりに無関心な人にみどりを好きになってもらう必要がある。
→ **未来を変える**

みどりの将来像と基本方針の検討

10

改定の視点

検討委員会での主なご意見

区民からの主なご意見

区民が主役となって、区は土台をつくるという構図に

計画素案

みどりの将来像

区民が変える みどいでつながるまち 杉並

キーワードは「変える」
何を変えるか？何がかわるか？

考えを変える

基本方針1

みどいがある当たり前を 変えよう

まちを変える

基本方針2

みどいでつながるまちに 変えよう

未来を変える、いま変える

基本方針3

みどいのある未来にいま 変えよう

取組一覧について

基本方針1 みどりがあるあたり前を 変えよう

みどりについての意識を高める

1-1 みどりを知る、学ぶ、教える

区民	緑化副読本を活用して環境学習、みどりの講座への参加、（仮称）みどりの講師バンクによる出張講師。
区	緑化副読本の発行、みどりの講座の開催、（仮称）みどりの講師バンクの設置とボランティア登録。

1-2 ふれあいながらみどりを考える

区民	みどりの新聞を区と協働で発行、みどりのイベント・落ち葉感謝祭・炭焼き体験会を区と協働で開催。
区	みどりの新聞の発行、みどりのイベント・落ち葉感謝祭、炭焼き体験会の開催、みどりの相談所の運営、みどりの実態調査の実施。

基本方針1 みどりがあるあたり前を 変えよう

みどりについての意識を高める

1-3 みどりとの共生を考える

区民	様々な恩恵をもたらしてくれる樹木は時に、倒木や枝折れで区民の人命や財産を侵害するリスクを理解する（畏敬と畏怖）。 ヒトと同じように樹木にも老いや病気があることを理解する。樹木の終活を考える。
区	公園樹木や街路樹等の樹木台帳を整備の上、樹木の位置や樹高、樹種、健康状態などから潜在リスクを抽出。樹木医による定期的な点検の中で必要に応じて処置。

基本方針1 みどりがあるあたり前を 変えよう

共通財産として区民が支える杉並の原風景

1-4 地域の理解で屋敷林を支える

区民	屋敷林への理解、みどりの支援隊などボランティア活動参加。
区	一律の定額補助から剪定費等の実費補助に制度変更するなどして、保護樹木等の支援制度を拡充する。 目玉
	市民緑地制度などを活用して屋敷林を保全する。 目玉
	みどりの支援隊の活動支援、区民との協働で屋敷林イベント開催。

1-5 農とふれあいながら農地を支える

区民	食を供給する農地への理解、地産地消に協力、援農ボランティア活動参加。
区	生産緑地制度を活用して農地を保全する。
	地元野菜の給食への提供、農業祭などを実施。
	援農ボランティアによる活動支援。農業体験農園開設の支援。

基本方針2 みどりでつながるまちに 変えよう

2-1 みどりを育てつなげるまちづくり

区民	住宅や店舗を一定以上は緑化する義務があることを理解する。助成制度を活用するなどして住宅や店舗にみどりを増やす。
	(仮称) 一家一鉢運動ですべての区民がみどりを育てる。小学校卒業記念に贈呈された花鉢を育て、みどりへの関心を高める。
	路線型みどりのベルトづくりを活用して連続したみどりを増やす。
区	緑化計画書による緑化指導を実施するとともに、接道部緑化助成などの補助制度活用を促してみどりを増やす。
	区内農家と連携し、花の寄せ植え講座等を発展させた(仮称) 一家一鉢運動の実施。区立小学校卒業生への花鉢の贈呈。
	路線型のみどりのベルトづくり事業の展開。

基本方針2 みどりでつながるまちに 変えよう

2-2 公園を核に区民がつなげるまちづくり

区民	ワークショップ等に参加して身近な公園づくりに関わることで、公園の愛着を高める。公園を核に地域のまちづくりへ発展させる。
	公園を場として、区民や事業者がマルシェやキッチンカー、イベントなどを企画して公園と地域の魅力を高める。
区	2500㎡以上の核となる公園の整備促進
	2500㎡未満の身近な公園を公園配置上の需要からみて整備促進。300㎡未満は公園機能が限られることから緑地や休憩機能を主として整備する。
	多世代が利用できる公園づくり基本方針に基づき、一定の範囲内にある複数の公園等それぞれが公園機能を分担、補完できるよう改修。 目玉
	地域が考える公園利用ルールづくり。 目玉
	バリアフリー対応施設への改修やインクルーシブ遊具の設置導入などを通じて、公園から移動等円滑化促進地区などまち全体のバリアフリー化につなげる。公園施設長寿命化計画に基づき、施設の劣化や損傷の進行を未然に防止し、長持ちさせる。
民間のノウハウを活用。	

基本方針2 みどりでつながるまちに 変えよう

2-3 生き物とつながるまちづくり

区民	住宅や店舗にみどりを増やしつなげることで、鳥のほか、チョウやバッタなどが生息できる場所、移動できる経路を増やす。
	在来種を中心とした植物を植えることで、多様な生き物が住みやすい空間をつくる。
区	エコロジカルネットワークから見て、多様な生き物の生息や移動中継に効果的な箇所の緑地保全を見極め、保全や創出に活かす。
	既存の生き物生息場所のほか大規模公園などの一角に新たな生き物生息場所を確保し、OECMの視点を加え新たに自然共生サイトに登録する。
	在来種植物活用ハンドブックを作成し、緑化指導にあわせて事業者及び施主に周知啓発。

基本方針3 みどりのある未来にいま 変えよう

3-1 みどりと共に住み続けられる未来をつくる

区民	環境負荷のかかる生活スタイルの見直し。
	建物の断熱化や太陽光パネル設置による二酸化炭素の排出抑制とともにみどりを増やすことで二酸化炭素の吸収に貢献する。
	落ち葉をゴミからみどりの資源に転換する。落ち葉を還す地面を増やすなど、落ち葉を還してみどりのリサイクルを進める。
区	建物断熱化や太陽光パネル設置補助。
	剪定枝は再資源化処理施設による堆肥化を推進。落ち葉は園内植栽柵へ掃き入れることで堆肥化を目指す。
	【再掲】緑化計画書による緑化指導を実施するとともに、接道部緑化助成などの補助制度活用を促してみどりを増やす。

基本方針3 みどりのある未来にいま 変えよう

3-2 みどりを活かして安心安全な未来をつくる

区民	農地は震災時には貴重なオープンスペースであることを理解する。
	雨水は下水道に流せば洪水の要因になるが、地面にしみ込ませればみどりが育つことを理解する。
	雨水タンクや浸透ます、雨庭などを住宅や店舗に設置する。
区	ハザードマップや木造住宅密集地域などから見た効果の高い公園整備 目玉
	防災兼用農業井戸を設置した農地を災害時の避難場所等としての活用を図り、周知する。
	グリーンインフラの手法を取り入れた雨庭を、区立公園や区立施設のほか、東京都と連携して都立公園内において設置。 目玉

基本方針3 みどりのある未来にいま 変えよう

3-3 風格あるまちなみ景観が選ばれるまちの未来をつくる

区民	みどりが魅せる歴史や文化、区民の活動が一体となった杉並らしい景観を考える。杉並の顔となる景観を考え、未来に引き継ぐ。
区	景観計画と連携し、とくに河川から見えるみどりを増やす取組。自然樹形を意識した剪定を公園樹木を中心に進める。

3-4 区民の想いが未来をつくる

区民	みどりの基金に寄附して、みどりを守り増やす取組に関わることを実感する。
区	市民緑地整備費用など、寄附の成果が見える取組への基金充当を検討。

計画素案構成について